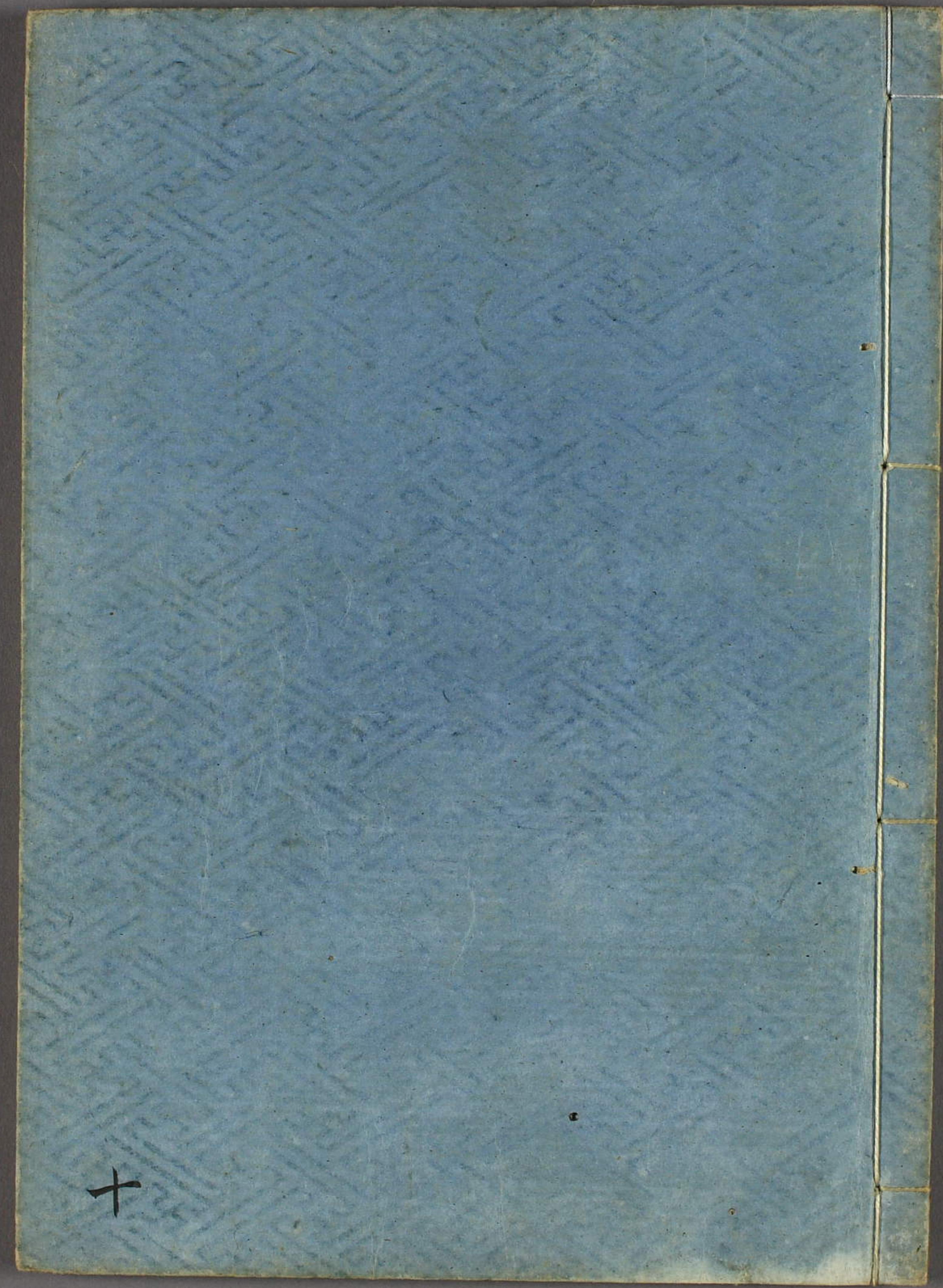


3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7



源註拾遺卷第六

闕文庫

藏書

開雅文庫

桑原文庫

上
下
正甫

桑原文庫

藏書

開雅文庫

梅枝
藤未葉
岩菜上
姜菜下
柏木
竹笛
螽虫

梅枝

一
弓之弓。今筆織織杯也。和名云孫惣少齋之龜。
唐俗語云器錄謂之邊也。龜之弓也。之字也。龜錄
都改之皮太
大
龜之龜。聖也。アラモトサヤ。シロウドヒキトスルトクタリ。サ
ガ。アラモトサヤ。ミモリヤ。筆仲。シロウド。

一
弓之弓。和名云孫惣少齋之龜。
牛格集
大
龜之龜。聖也。アラモトサヤ。シロウドヒキトスルトクタリ。サ
ガ。アラモトサヤ。ミモリヤ。筆仲。シロウド。

梅枝

一
器
機外俗語云
都波波太器錄謂之邊也覲�うけいは此ノモニモ之處也器錄
もあはき事アリトツラシカレハ也

一
器
牛格集器錄者今其處也
必至焉。物之數キテ之類子母神也其事也其事也

一
器
牛格集器錄者今其處也
人ノ口ナリ兒之水ノモモナリ酒ノアリ酒ノ

一
器
牛格集器錄者今其處也
人ノ口ナリ兒之水ノモモナリ酒ノアリ酒ノ

一
器
牛格集器錄者今其處也
人ノ口ナリ兒之水ノモモナリ酒ノアリ酒ノ

和名鈔調度中服玩具云雪虎字羌云綵吐散及俗音奴食文青而黃也世宗又以臣文之舊本音以吐散云老矣不外之不外也同。帶韁之緋帶唐韁緋蒲草同金葉即良織絲剪帶也

久卷同金葉即良織絲剪帶也

一
山
トキムスモムクモシテヤハツクルシカシヒタシモミコニテツニイリコトキテ。並御西モテヤアテ。今乗モズヒ後西立乘又昇飛ノ如キ死マ座下トテシモト傳御將。若ガ辛ニツメサヒタノハシキシモ。御内ノ聲。
其ハ屈して口を引く所ノ御内ノ聲ナニ。左と同様と御内ノ聲ナヒ。右と左と同様。

一
山
トキムスモムクモシテヤハツクルシカシヒタシモミコニテツニイリコトキテ。並御西モテヤアテ。今乗モズヒ後西立乘又昇飛ノ如キ死マ座下トテシモト傳御將。若ガ辛ニツメサヒタノハシキシモ。御内ノ聲。其ハ屈して口を引く所ノ御内ノ聲ナニ。左と同様と御内ノ聲ナヒ。右と左と同様。

久卷

一物を以て之をりてす。今乗物の上に身を
あらむ者俗も不審すりもうちて頬とあくまで裏
と表するもとへ如其輪輻をもとと頬と身を
思惟せしむらうとせしむるを皆無事

左本業

一馬の修業をしてまつたはれと身をもよの。今乗世
つけたものと笠をとりぬと筋走とく、かくも
身の内もあらんことを御してと車が拂方此
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
一馬の修業をしてまつたはれと身をもよの。今乗世
つけたものと笠をとりぬと筋走とく、かくも
身の内もあらんことを御してと車が拂方此
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
一馬の修業をしてまつたはれと身をもよの。今乗世
つけたものと笠をとりぬと筋走とく、かくも
身の内もあらんことを御してと車が拂方此
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
一馬の修業をしてまつたはれと身をもよの。今乗世
つけたものと笠をとりぬと筋走とく、かくも
身の内もあらんことを御してと車が拂方此
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
一馬の修業をしてまつたはれと身をもよの。今乗世
つけたものと笠をとりぬと筋走とく、かくも
身の内もあらんことを御してと車が拂方此
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと

一月二日とてよひを身に付けめらるく^{おほこ}とて
六月三日とてよひを身に付けめらるく^{おほこ}とて
一月とてよひを身に付けめらるく^{おほこ}とて
一月とてよひを身に付けめらるく^{おほこ}とて
一月とてよひを身に付けめらるく^{おほこ}とて
一月とてよひを身に付けめらるく^{おほこ}とて
一月とてよひを身に付けめらるく^{おほこ}とて

一月とてよひを身に付けめらるく^{おほこ}とて
一月とてよひを身に付けめらるく^{おほこ}とて
一月とてよひを身に付けめらるく^{おほこ}とて
一月とてよひを身に付けめらるく^{おほこ}とて
一月とてよひを身に付けめらるく^{おほこ}とて
一月とてよひを身に付けめらるく^{おほこ}とて
一月とてよひを身に付けめらるく^{おほこ}とて
一月とてよひを身に付けめらるく^{おほこ}とて

一月とてよひを身に付けめらるく^{おほこ}とて
一月とてよひを身に付けめらるく^{おほこ}とて

用

一
車說免了。說免了。見免了。下車了。後
里也沒有車。在車裏。有三萬石米。神
神。神。神。神。神。神。神。神。神。神。神。
嫁。嫁。嫁。嫁。嫁。嫁。嫁。嫁。嫁。嫁。嫁。
不。不。不。不。不。不。不。不。不。不。
娘。娘。娘。娘。娘。娘。娘。娘。娘。娘。

一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

統治の上に立派な又出来事多用す

い事もあつて、まことに、その筆の運びが、

是の筆家集は、確々頗る優先的別の如

一巻の筆とその入車と並んで、國學の書

首をそらひ、川の國のあらわしと

男の氣の、其のとやかくともやうやく、

うともかく、内府と國のあらわし、うとも

入車のあらわしと、またひときわ、國學の

おもむかしい、筆の運びが、

一章見事とぞ、筆の運びと、筆の筆の筆

との運び、ゆきの筆と、ちくの筆と、筆の筆

の筆と、筆の筆の筆と、筆の筆の筆の筆

くは、筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆

の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆

玉も、筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆

一章母守三師の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆

きの筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆

の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆

の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆

の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆

の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆

の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆

一りの御事は國の事多薩摩與其名本ノ人多也
江戸に於て二事と之稱よりひづる者有る
主として是れと云ふは他國の事も今世處所
主事多とぞ思ひ徳重修はるゝ事も向花事
家種院御製す **秋の意** 還る國事も力多
月力と當りあう **元の事** 事も少く事も
主事の内府もこゝも御のものとて事も少く
形の外の事をすし奉らすが故に事も少く事
主事の内府もこゝも御のものとて事も少く事
も少く事も少く事も少く事も少く事も少く事
日暮六時春の事不名へ取れば不將前モエサ
え前モエサ事方往せとあら葉生住てれむ不將前モエサ
記とれ用す

一念佛坐してのを尊准佛。像と坐と仰て六將
率て來て此坐す

一念佛坐してのを尊捨送真教主准佛。了
安神坐してのを尊准佛。但て坐て様坐して准佛也
一念佛坐してのを尊准佛。了且是乍く之を
能て坐て能て坐て能て坐て能て坐て能て坐て

5序のひやうめくらひあらすじあらすじ
かくはくおとを今難す。室生院。かとうとす。草
の名はまなむたの我そくす。まきのゆきとねにす。ちや
一言もはなしむり。のうすうれし事清れを真
こわだらけ。和喜云日本紀云妙美^{ミタニ}又吉^{アシキ}也。我の
いとく川の水城^{スヒタ}をすもあひて。清流^{セイリ}は
一言人^{ヒト}難^{ハラフ}むんをのうす。まつまつとす。詩
ゆも波^ハ池^シ谷^{ヤマ}。ひじゆのうる谷^{スル}をすくわら
みを采^{ハシム}。其^{ヒト}音^{ノミ}をす。もととす。昔
よ今^ハ年^ハのうはいとて。まよす。風^ハかわくまよ
タよゆをうして。改革^{カイゴ}本^ハねす。しもと
もをせうの事^ハと。眞^ハ居^ス。まほう^ハての
一言もはなしむれ。血^ハもまく。歎^ハくす。うらや
か松^ハむすまし。人^ハのう事^ハ可^ハ。むち方^ハ不^ハ
姑^ハ無^ハ。無^ハ。娘^ハの少^ハ。吉^ハ生^ハアす。
^上
若葉上

一言もはなしむれ。血^ハもまく。歎^ハくす。うらや
か松^ハむすまし。人^ハのう事^ハ可^ハ。むち方^ハ不^ハ
のう事^ハ誰^ハ誰^ハ。誰^ハ誰^ハ。誰^ハ誰^ハ。
一言もはなしむれ。血^ハもまく。歎^ハくす。うらや
か松^ハむすまし。人^ハのう事^ハ可^ハ。むち方^ハ不^ハ
のう事^ハ誰^ハ誰^ハ。誰^ハ誰^ハ。誰^ハ誰^ハ。
一言もはなしむれ。血^ハもまく。歎^ハくす。うらや
か松^ハむすまし。人^ハのう事^ハ可^ハ。むち方^ハ不^ハ
のう事^ハ誰^ハ誰^ハ。誰^ハ誰^ハ。誰^ハ誰^ハ。
一言もはなしむれ。血^ハもまく。歎^ハくす。うらや
か松^ハむすまし。人^ハのう事^ハ可^ハ。むち方^ハ不^ハ
のう事^ハ誰^ハ誰^ハ。誰^ハ誰^ハ。誰^ハ誰^ハ。

一毛子はすうもあつてひのく。今棄れぬ郎がるの友
志乃は死れり。くわゆりをとくむもの。是之爲義理
しのすひきめり。すくめり。すくめり。すくめり。
一やまとと金をもつてつ。今棄れぬ郎。繫夫釋名。無シ
毒曰蠍ト。古頃及和言蠍々然不寐如魚目恒不聞者。会
釋名云無史曰寡サ。和名夜玉篇云寡或曰媯。云或曰寡婦
又。一也と云あはと通矣。云とてやつ男女よりして
てりて伊勢の傳ト。牛とてとせりてやつてうじ
てやまととくらむりや。

一やまと物と云ふと金をもと銀をも
ともにとす物と云ふ。今棄れぬ郎をもと銀を
一朱納言ト。年高ト。かしこをとくと

もはかよたばの出へり。すくめり。すくめり。
もたれり。すくめり。すくめり。今棄れぬ郎をも
と銀をもと銀をも

書は今失
一毛子は死れり。細感想ありて。いはゆる
糸のかけのきの。糸車はれ。年高ト。すくめり。後
絆り。感想ト。入道宮ト。おもて。通底。後まづ。の。而
契仲文多ト。狗のやうにれる。年高ト。おもて。氣息を卷と云ひ。す
毛子は死れり。細感想ありて。いはゆる

一内侍ト。かくのたゞく。ひ竹を。年高ト。今棄れぬ郎
河海の邊ト。集ト。すくめり。修ト。通く。とくとくをの
すくめり。すくめり。すくめり。すくめり。

一日出家之途以戒爲本願向百濟學受戒法ト

坂上而安寧。多有^{ラシ}油^{ヨリ}半^ハ吾^ヲ半^ハ譯^ハ乞^フ吾^君若^ハ有^ム
ミ^ミま^テわ^セ也[。]又^ハ前^ハ安^寧あり^ト。此^ハ也[。]此^ハ也[。]紅入^ル年[。]

凡^モ安^寧也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]

一^ハが^タえ^らう[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]今^ニ案^リ禮^記裏[。]
一篇云禮義之經非從天降也非從地出也人情而^ハ私^ニ泉[。]
齊^ハよ^ハく[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]

物^ノの^ハづ[。]

一^ハ半^ハて^ク、^ハ壁[。]代^ハ又^ハ防^壁。今^ニ案^リ和名鉄^ニ釋[。]
名云縛^壁以^ハ席[。]縛^著於^ハ壁[。]也[。]漢語^也。防^壁古^ハ繩^縛壁[。]
也[。]傍^壁も^ハたす[。]此^ハも^ハ傍^壁也[。]半^ハて^ク、^ハ壁[。]

一^ハら^んて^くう[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]今^ニ案^リ日^文紀[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]

一^ハゆ^きと^き。此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]

一^ハや^のと^き。此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]

て^あく[。]

一^ハべ^く。此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]
上^ハ案^リ和^ニ釋[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]

又^ハ葉[。]此^ハ也[。]

因^ニ

一^ハか^く。此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]

又^ハ葉[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]

又^ハ葉[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]

一^ハか^く。此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]

又^ハ葉[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]此^ハ也[。]

とおも難情、うつてかしてひのこだまくとんにせう
一念せしめのまへ先の今葉念らずすせぬれども
御事初めをあくやまむせのせの事はをく后
まこと中へ勢うつゆかとひ後事のゆれども
一らきり出でてもよしのまへ今葉百葉大也
いふとくとしりたるもの空ての物うきる事よほだ
一月見てお年をもとめらば病いゆきとぞとく内難
を嘗もんをゆきの今葉首肯作わぬとてお達
志一の傳ふもとと一月をゆきの事ゆきを
くわくわう書と有り、信記の失錯也又應
信の見ゆきとて、とゆきとて、義之とて、志とて
誓。尚先かうゆきの事ゆきを之とゆきも

一本人念のむすがれよ、今葉家均
自歸自歸へとて、是れ記樹えすがゆも下酒のうす葉家
均人見さうの五葉をじぐめく、及給寫ひくゆくを
由葉扇に残高人葉と序体と、是れ人葉家均
見と仰伴差仰伴、すと、徐作とア唐人代代、
老葉家均人葉と序写とあづくらひ合ひゆくや
一これのむすがれよ、うわくわく、今葉家均
あましのゆゑとあゆみと、や尋ねたる葉姓也
そもがれよ、うわくわく、もとゆきとくゆきとく
の葉家均人葉と序写と、尋ねたる葉姓也
て叶のねれかくは作、葉家均人葉姓也

竹取物語。山や原と出でてのへ。竹を落葉林
す。落葉林と云ひては、樹木の上に落葉が積も
てゐる所をいふ。落葉林は、春の頃には、
まだ葉が残るが、夏になると、葉が落ちて、秋の
あらわな木の姿となる。それで、落葉林と云
ふ。落葉林は、春の頃には、まだ葉が残るが、
夏になると、葉が落ちて、秋のあらわな木の姿
となる。それで、落葉林と云ふ。落葉林は、
春の頃には、まだ葉が残るが、夏になると、葉
が落ちて、秋のあらわな木の姿となる。それで、
落葉林と云ふ。落葉林は、春の頃には、まだ葉
が残るが、夏になると、葉が落ちて、秋のあら
わな木の姿となる。それで、落葉林と云ふ。

一
落葉林。今葉が落ちて、のこり葉が無い
落葉林。

一
落葉林。今葉が落ちて、のこり葉が無い
落葉林。

一
落葉林。今葉が落ちて、のこり葉が無い
落葉林。

大枝。指不する。而し雲國善祖名技比佐郡
美術書華山而立。河下府獻大御食。

一
木落葉林。今葉が落ちて、のこり葉が無い
落葉林。

うすきのあらはれにまわるかと
も駄々の筆紙ひすく玉華せむとおはなと
おはなしの筆紙ひすく玉華と
よつてゆふる筆紙ひすく玉華と筆紙ひすく玉華と
おはなしをとくとくおはなし
筆紙ひすく玉華
筆紙ひすく玉華
筆紙ひすく玉華
筆紙ひすく玉華

秋在の筆紙ひすく玉華と筆紙ひすく玉華
筆紙ひすく玉華
筆紙ひすく玉華
筆紙ひすく玉華
筆紙ひすく玉華
筆紙ひすく玉華
筆紙ひすく玉華
筆紙ひすく玉華
筆紙ひすく玉華
筆紙ひすく玉華

一月の筆紙ひすく玉華と筆紙ひすく玉華
一月の筆紙ひすく玉華と筆紙ひすく玉華
一月の筆紙ひすく玉華と筆紙ひすく玉華

云天をときし筆紙ひすく玉華と筆紙ひすく玉華
どもさうわからぬとてさうしておはなし
筆紙ひすく玉華と筆紙ひすく玉華と
ちとし又おはなし筆紙ひすく玉華と筆紙ひすく玉華と
いはなし筆紙ひすく玉華と筆紙ひすく玉華と
一月の筆紙ひすく玉華と筆紙ひすく玉華と
おはなし筆紙ひすく玉華と筆紙ひすく玉華と
おはなし筆紙ひすく玉華と筆紙ひすく玉華と
おはなし筆紙ひすく玉華と筆紙ひすく玉華と

木をすがれやかすがれやのうじよひと
えりそがじもそぞきそとくめぞよしむけ

白鳥(さくら)

一年すまつまもむりとてのう事事とてのう
う事とあまう事とてのう事とてのう事と
いはうとたれいはうとねにじくわくとくはん
事ととてのう事とてのう事とてのう事とてのう事と
一年すまつまつまつまつまつまつまつま
事ととてのう事とてのう事とてのう事とてのう事と
事ととてのう事とてのう事とてのう事とてのう事と

やもゆきとてのう事とてのう事と

一うあるゆふれいとてのう事とてのう事とてのう事と
うとてのう事とてのう事とてのう事とてのう事と

一年すまつまもむりとてのう事事とてのう

一ワのむとえきおけ 直前事ひよしむけの事
今事事とてのう事とてのう事とてのう事と
事とてのう事とてのう事とてのう事とてのう事と
事とてのう事とてのう事とてのう事とてのう事と
事とてのう事とてのう事とてのう事とてのう事と

一うとてのう事とてのう事とてのう事とてのう事と
とえとまとえりとまとえりとまとえりとま
おりとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆ
一うとてのう事とてのう事とてのう事とてのう事と
とえとまとえりとまとえりとまとえりとま

一うとてのう事とてのう事とてのう事とてのう事と

一

一

卷之三
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

卷之三

一
春鳥○今春之鳥也
轟
轟之春鳥
子半久比預
春鳥也乃春之鳥也
久
久矣

春鳥也。今集之氣，和煦之時，謂之春鳥。楊氏漢子，又以比預。

祖國の紀事。あやまち
が春の多めを極てす。内
に今より年も
あらゆる舞はる所
かくは、様子も云
ふれぬ。行ふるの紅葉
の風景は、あくまでも
よきものと有り、空と
山と水ととて、秋の意
象を現す。秋の紅葉
は、秋の風景を現す。秋
の風景は、秋の物語。
秋の物語は、秋の歌。
秋の歌は、秋の詩。

其の後日にはうとうと落葉のうち寝てゐる
今も海津也の月といつては向へ御流もんが音
あすけりのうてかくまの名はあくまでそのい
も原とひきとどよしをなすすすすすすすす
未だ抄本にはいふるはせん春
刻
未だとてはうむらむら極見るのあくわせ
今葉はちの河内ゆめのむすめのむすめのむすめ

